2005年度前期「都市教養プログラム」SE概要報告

基礎教育センター　助教授

舛本　直文

はじめに

2005年度前期にFDの一環として実施した「都市教養プログラム」に関する学生の授業評価（SE）と教員による自己評価の結果の概要を報告する。

実施の概要

実施主体：FD委員会および基礎教育部会

評価対象授業：首都大学「都市教養プログラム」61科目（履修申請者：5,654名）、都立大学読替「教養科目」38科目（履修申請者：1,224名）、履修申請者合計数：6,878名、対象教員：86名

実施方法：前期最終授業にて配布・実施

（平成17年7月11日～28日）

回　収：7月11日～8月1日、教務課送付か持参

回収率：　授業数=56/61科目=91.8%

教員数=81/86　名=94.2%

首都大「都市教養プログラム」

受講者3,478名／履修申請者数5,654=61.5%

都立大読替「教養科目」

受講者　287名／1,224名=23.4%

その他・無記名：37名

合計：3,802名／履修申請者数6,878名=55.3%

調査項目（別紙学生用・教員用調査票参照）

０．SE全授業の傾向（教員・学生比較表参照）

授業への満足度の平均値からみた傾向分析では、全授業の満足度平均値は3.64（5段階評価）とまずまず高い評価を得たと解釈できる。平均値3.5ポイント以上を「優れた授業」と判断すれば、56授業中40授業がそれに該当する。中

でも、平均値4.0ポイント以上を「特に優れた授業」と判断すると、56授業中16授業が特に高い評価を得ているといえる。平均値3.0ポイント以下を「満足度が低い授業」と考えられるが、5授業がその低い評価を得た。

１．SEの全体傾向（教員・学生比較表度数集計%参照）

1)出席率：全体・首都大・都立大とも出席率が非常に高い。但し、それが直ちに学生達の授業態度が熱心であるとは限らない。2)意欲的・積極的な取り組み：半分強（55.9%）が積極的に取り組んでいるが、13%が積極的ではないと答えている。3)客観的評価の自信：「自信あり」と回答した学生は半分以下。15%弱が「自信なし」と回答。きちんと授業評価ができるような学生の教育が必要である。4)授業の目的明確性と体系性：63.2%が明確で体系立っていたと回答し、11%がそう思っていない。都立大に肯定的回答が多い。5）教科書、レジュメ、黒板、OHP等の使用が授業の理解に役立ったか：約62%が肯定的回

答、14%が否定。都立大に肯定的回答が多い。6)授業内容の難易度の適切性：58%が肯定し 13.5%が否定。都立大の肯定的回答が 67.2%と多い。２年生以上であることの差かもしれない。7)話し方の聞き取りやすさ：57.6%が肯定的、16.7%が否定的。都立大の肯定回答が 66.2%と大きい。8)効果的な学生の授業参加の促進：この項目の評価は非常に低い。36.9%の肯定しかなく、26%もの学生が否定している。特に都立大の評価が低い。この結果は、大人数教育のせいかもしれず、都立大生が低い評価をしているのも、都立大の特色である少人数教育効果が反映されているのかもしれない。9)学生の質問・意見に明快な対応：43.2%と低い評価。特に、都立大生は29.1%と否定的である。ここにもクラスのサイズが反映されているのかもしれない。10）教員の熱意：67.2%が肯定しているが、否定的な回答が7.7%あることも注目する必要がある。つまり、授業の熱意が感じられない教員がいるという事実を直視する必要がある。11）シラバスが役だった：37.4%しか肯定しておらず、25.5%もの学生が否定している。シラバスが授業の選択にあまりに役立っていないことは大きな問題である。見直しが必要である。12）テーマが自分の関心に合致：58.1%が肯定、15.3%が否定的である。テーマ別に選択する科目であるのに問題をはらんでいるといえよう。13）総合的・学際的アプローチが促進されたか:41%しか肯定しておらず、18%が否定している。この結果は、総合化の方向が低すぎることを意味している。教養科目としての指向性や目的の共通理解の欠如、「都市教養」という名前を冠することが問題であるのかもしれない。14)受講の満足度:57.3%が肯定し、14.8%が否定している。この数字は 3 分の 2 も満足していないという事実を示している。都立大生の満足度が 62.3%高い傾向が見られる。15)興味持って深く学びたいか：53.4%が肯定し17.2%が否定している。この結果、学生たちの興味・学習関心を触発していないといえる。16)他の学生に薦めたいか：48.7%が肯定し 16.5%が否定的であり、あまり評価が高くないといえる。ただし、推薦には多様な要因が関与していることも事実であろう。

２．ＳＥの全体傾向　（教員・学生比較表平均値参照）

SE の平均値の全体傾向から見ても、「適切な評価の自信」に低い傾向がみられる。評価が低い項目（3.5 ポイントを下回る項目）は、「学生の参加促進」「質問対応」「シラバス」「総合的･学際的」「推薦」の 5 項目である。「総合満足度」は 3.5 ポイントを上回り、まずまずの評価を得ている。しかし、他人へはあまり薦めたくはないという傾向が見られる。

３．問１４の総合満足度における「満足群」と「非満足群」の比較

1)両群とも出席率は高い。2)非満足群で 3.0 ポイントを下回る項目は「意欲的」「学生参加」「質問対応」「シラバス」「テーマ関心」「総合的」「満足度」「興味」「推薦」の 9 項目である。3)満足群で 4.0 ポイントを上回る項目は「出席率」「意欲的」「目的明確」「教科書等」「難易度」「話し方」「教員熱意」「テーマ関心」「満足度」「興味」「推薦」11 項目である。4)両群間で 1.0 ポイント以上の差がある項目は 9 項目であり、その内、「意欲的」「目的明確」「教科書等」「「難易度」「テーマ関心」「総合的」の 6 項目への評価が、その授業後の「満足度」「興味」「推薦度」の評価に影響していると推察される。5)首都大学・都立大学間格差：非満足群は首都大学の「難易度」が全体より増えたが、同傾向である。6)満足群では、都立大で「意欲的」が 4.0 ポイントを下回って 10 項目に低下。7)満足・非満足の両群間で 1.0 ポイント以上の差があるものは、首都大 8 項目に対して都立大は 5 項目と少なくなっている。その評価結果が両大学の総合満足度の差につながっていると推察される。

４．７系列（学部・学系）間比較

（G-図・表３―１折れ線グラフ）

全体的に見て、「適切な評価」「学生参加」「質問応答」「シラバス」「総合的・学際的」に谷が見られ、低い評価を受けていることが明白である。「満足度」の評価平均値が高いのが、健康福祉学部、人文・社会系、法学系の３系列であり、「満足度」の評価平均値が低いのが、経営学系、システムデザイン学部である。

５．クラスサイズ別比較

クラスサイズが授業の展開に影響することが予想されるが、それが授業評価にどのような差をもたらしているか推察しようとした。「学生参加」や「質問対応」への評価では、少人数クラスの評価が高いように、30 人未満のクラスの評価が高いのは当然であると考えられる。しかしながら、クラスサイズが大きくなれば比例的に評価が下がるとは限らない。今回の SE では 200 人以上のクラスでも「テーマ関心」、「興味」「推薦」に高い評価がみられるからである。しかし、大人数クラスになると「出席率」は下がる傾向がみられる。同様に「話し方」「教科書等」の評価も低下する傾向がみられる。

６．教員数別比較

担当教員数が授業評価に影響するかどうか分析してみた。授業を担当する教員の数が増えれば「満足度」や「興味」「推薦」の評価が下がるという傾向はみられなかった。担当教員が５人のクラスが１授業あったが、その授業自体に対する評価が高かったことが、このような結果に反映されていると考えられる。「教員の熱意」や「テーマへの関心」への評価度合いは、担当教員の人数に関係なく授業自体への評価に関連しているようである。

７．男女別比較

女子学生の評価がすべての項目で高い。特に、「出席率」「意欲」も高く、「満足度」「興味」「推薦」度も高い。男女別に満足・非満足群を比較して、両群間に１ポイント以上差がある項目（満足度評価の判断に影響したと推察される項目）は、「意欲」「目的の明確性」「教科書等の資料」「難易度」「話し方」「テーマへの関心」の 6 項目であり、それが授業後の「満足度」「興味の深化」「他者への推薦」への評価の差となっているようである。

８．分野別・テーマ別比較

「都市教養プログラム」は分野別、テーマ別で構成されている。分野別で「満足度」の評価が高いのは、人文・社会系Ⅱであり、低いのは人文・社会系Ⅰである。分野間で評価の差が大きいもの、つまり評価が分かれる項目は、「目的の明確性」「教科書等の資料」「話し方」の３項目である。

テーマ別の評価傾向は、あまり差が見られない。

９．学生評価の自由記述の傾向分析（カテゴリー別、キーワード別整理）

学生の授業評価では、自由記述として、よかった点、改善点、自由記述の３カテゴリーで意見を聴取した。改善点に関する自由記述が 45.7%と一番多かった。よかった点として寄せられた自由記述は 38.9%であった。キーワード別では、資料、ＰＰＴ、ＶＴＲ、教科書、参考書、ＨＰ、授業ノート、板書などの資料に関する自由記述が 25.8%と一番多かった。ついで、対話、コミュニケーション、Q&A、話し方など、コミュニケーションに関わるものが 17.1%、難易度、対象設定、授業タイトルなど授業内容に関わるものが 16%と続いている。

１０-1. 教員の自己評価分析（教員・学生比較表%参照）

1)受講者数の適切性：クラスサイズが適切と思っている教員は 55.5%と半分強であり、3 分の 1 が受講者数に不満を感じている。2)学生が意欲的・積極的取り組み：53.1%と半分強しかそう

思っていない。3)学生の理解力：十分な理解力を持っていると思う教員は 54.4%であり、半分強しかそう思っていない。4)目的明確・体系的：約 90%が肯定している。5)教科書・レジメ・板書・OHP などの使用：69.2%と約 3 分の 2 以上が適切に利用したと判断している。6)授業の難易度の適切性：67.9%が適切であると思っている。7)聞き取りやすい話し方:71.7%が聞き取りやすく話したと判断している。8)学生参加の促し：46.9%と半分以下が参加促進したと、少ない評価である。9)質問・意見への明快な対応：66.7%と 3 分の 2 が明快に対応したと評価している。10)熱意：88.9%が肯定しているが、約 1 割の教員がそう思っていないことが問題であろう。11)シラバス：役立つように作成したとする教員が 67.9%と少なめではあるが、3 分の 2 以上が肯定している。その一方で、30%強の教員がシラバスが役立つようには作成していないと評価したことが大きな問題である。12)テーマへの関心：88.9%と関心と持つように教えたと肯定的な評価をしている。13)総合的・学際的アプローチ：61.7%と 3 分の 2 以下にすぎない。3 分の 1 強が否定的であることは、教養教育として指向する方向の再確認が必要であるように思われる。14)学生たちの満足:55.6%と半分強しか学生が満足したと考えていない。満足させるような授業をしていないと自己判断する教員がかなりいることは大きな問題であろう。学生のニーズを調査し確認しながら授業を展開していくことも必要であろう。15)教員の満足度：58%が満足している。非満足の教員が 42%もいることが大きな問題であるが、その理由が一体何であるのか、今後確認していく必要があろう。

10-2.教員の自己評価　（教員・学生比較表平均値参照）

教員の授業満足度は 3.60 ポイントとまずまずの肯定的評価を得ている。「熱意」と「テーマ関心」が 4.0 ポイント以上の評価結果である。評価が低いと判断することもできる 3.5 ポイント以下の項目は、「人数の適切性」「学生の理解度」「学生参加促進」の 3 項目であり、特に、受講者数に問題を抱いている教員が多いようである。教員の授業満足・非満足別の傾向分析では、1.0 ポイント以上差があり、満足度に影響すると考えられる項目は「人数の適切性」だけである。学生が満足したかどうかに関わって、1.0 ポイント以上差があり、満足度に影響すると考えられる項目は同じく「人数の適切性」だけであった。このように、教員の自己評価ではクラスサイズへの不満が大きく影響していることが明らかとなった。

１１.教員の自由記述の傾向分析(カテゴリー別、キーワード別整理％)

自由記述の内容は、「解決すべき課題」に関する意見が 38.4%、「授業の工夫」が 34.8%、「自由意見」が 26.8%であった。

キーワード別では、資料、PPT、VTR、教科書など資料提示関連に関する意見が 19.9%と最多であった。次いで、「施設や整備」に関する意見が 16.6%と第 2 位であった。これに、対話などのコミュニケーション系とクラスサイズが共に続いている。教員にとって学生数（クラスサイズ）に関する自由記述が 11.3%と多いのが特徴的である。

１２.学生評価および教員評価の比較分析
（図表　教員学生比較横棒グラフ参照）

さらに、学生の SE と教員の自己評価で対応させた項目間で比較を行った。その結果、平均値では差が目立たない項目でも%分布で肯定的評価（5+4 の回答）の間に差が見られることが明らかになった。学生の評価では、「目的の明確性」「質問への応答」「熱意」「シラバス」「テーマへの関心」「総合的」に教員よりも特に低い評価が見られた。また一方で、「学生参加」「質問応答」「シラバス」「総合的」の 4 項目に学生、教員ともに共通して低い評価が見られた。

まとめと課題

・総合評価平均値 3.64 でまずまずの評価を得た。

・平均値 3.0 ポイント以下の授業の改善が必要。

・学生の SE 客観的評価の自信を上げる必要がある。

・「学生の参加」「質問対応」「シラバス」「総合化」への充実が必要。ただし、クラスサイズによって教授法が異なることも踏まえる必要がある。

・クラスサイズが教員の不満の大きな要因となっている。受講者数の制限など、何らかの対策が必要である。

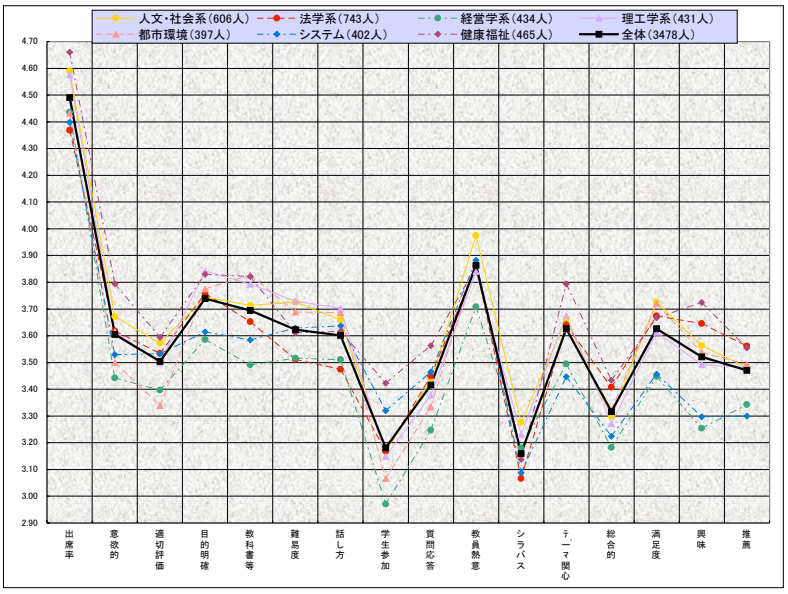
・学生と教員の評価差・認識差が大きい。教員の独りよがりの授業にならないように配慮する必要性。

・基礎教育（都市教養プロ、教養科目）への共通理解の必要性。

・当面の FD 課題として、教授法、コミュニケーション法、シラバス作成法など、具体的な授業方法（技法）の研修が望まれている。

・基礎教育へのアンケート、情報リテラシー、実践英語等、他の評価と併せて不断の教育改善が必要である。

G-図・表3－1　都市教養プログラム 7系列別　平均値≫



	出席率	意欲的	適切評価	目的明確	教科書等	難易度	話し方	学生参加	質問応答	教員熱意	シラバス	テーマ関心	総合的	満足度	興味	推薦
人文・社会系(606人)	4.59	3.67	3.57	3.75	3.71	3.73	3.66	3.17	3.43	3.98	3.28	3.66	3.30	3.73	3.56	3.48
法学系(743人)	4.37	3.62	3.53	3.76	3.65	3.51	3.47	3.17	3.45	3.86	3.07	3.64	3.41	3.67	3.65	3.56
経営学系(434人)	4.44	3.44	3.40	3.59	3.49	3.52	3.51	2.97	3.25	3.71	3.18	3.49	3.18	3.45	3.25	3.34
理工学系(431人)	4.58	3.61	3.50	3.84	3.79	3.73	3.70	3.15	3.38	3.84	3.23	3.68	3.27	3.61	3.49	3.48
都市環境(397人)	4.43	3.50	3.34	3.77	3.83	3.69	3.69	3.07	3.33	3.88	3.16	3.63	3.32	3.72	3.54	3.49
システム(402人)	4.40	3.53	3.53	3.61	3.58	3.63	3.64	3.32	3.47	3.88	3.09	3.45	3.22	3.46	3.30	3.30
健康福祉(465人)	4.66	3.79	3.59	3.83	3.82	3.61	3.62	3.42	3.56	3.86	3.14	3.79	3.43	3.67	3.72	3.55
全体(3478人)	4.49	3.60	3.50	3.74	3.70	3.62	3.60	3.18	3.42	3.86	3.16	3.63	3.32	3.63	3.52	3.47

《 教員・学生 比較表 》

・度数集計の割合(%)

		人数適切	学生意欲	学生理解	目的明確	機器適切	難易度	話し方	学生参加	質問応答	熱意	シラバス	テーマ関心	総合的	学生満足	教員満足
教員全体	5	11.1	7.4	2.5	18.5	13.6	8.6	19.8	8.6	11.1	46.9	14.8	30.9	12.3	2.5	11.1
	4	44.4	45.7	51.9	67.9	55.6	59.3	51.9	38.3	55.6	42.0	53.1	58.0	49.4	53.1	46.9
	3	11.1	43.2	34.6	7.4	23.5	24.7	25.9	30.9	24.7	6.2	23.5	7.4	24.7	40.7	29.6
	2	27.2	3.7	11.1	3.7	6.2	7.4	2.5	19.8	7.4	3.7	7.4	2.5	11.1	3.7	6.2
	1	6.2	0.0	0.0	2.5	1.2	0.0	0.0	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	0.0	2.5
	無	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	3.7

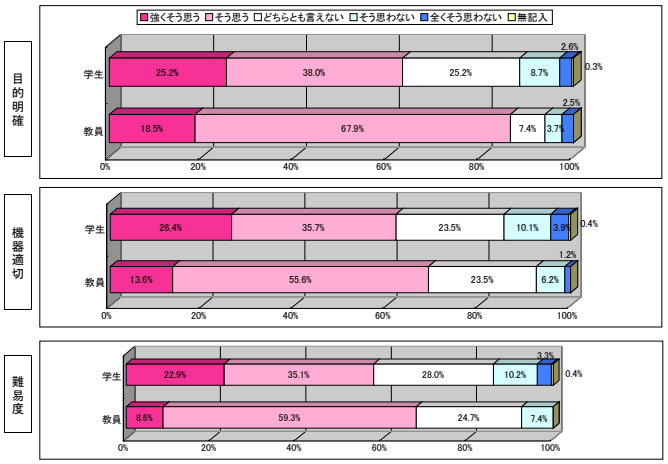
		出席率	意欲的	適切評価	目的明確	教科書等	難易度	話し方	学生参加	質問対応	教員熱意	シラバス	テーマ関心	総合的	満足度	興味	推薦
学生全体	5	67.9	20.8	18.4	25.2	26.4	22.9	26.4	13.1	14.9	28.9	12.5	24.6	13.7	24.9	21.7	20.8
	4	19.1	35.1	31.4	38.0	35.7	35.1	31.2	23.8	28.3	38.4	24.9	33.5	27.3	33.4	31.7	27.9
	3	7.7	30.6	35.2	25.2	23.5	28.0	25.4	36.5	43.0	24.5	36.6	26.1	40.4	26.0	28.4	31.9
	2	2.5	10.4	11.5	8.7	10.1	10.2	11.8	18.8	9.4	5.7	17.2	11.3	12.7	9.6	11.7	10.3
	1	2.5	2.9	3.2	2.6	3.9	3.3	4.9	7.2	3.8	2.0	8.3	4.0	5.3	5.2	5.5	6.2
	無	0.3	0.3	0.4	0.3	0.4	0.4	0.4	0.6	0.6	0.4	0.6	0.6	0.7	0.9	1.0	2.9

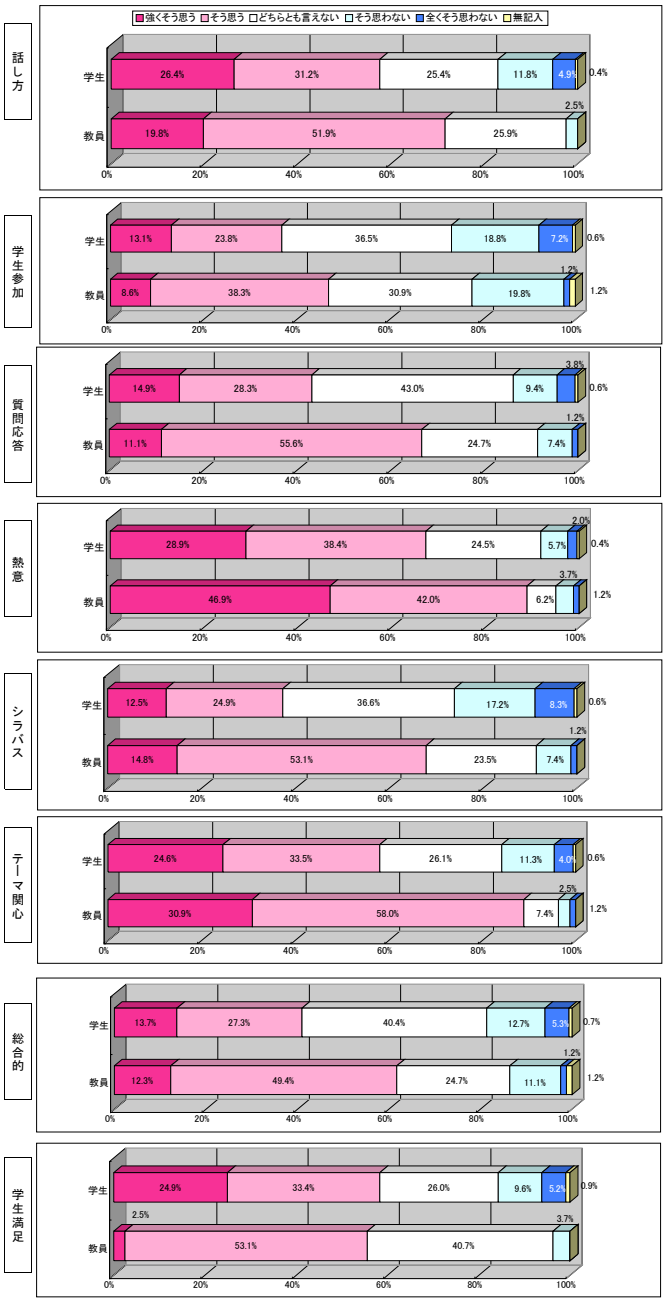
・平均値

	人数	人数適切	学生意欲	学生理解	目的明確	機器適切	難易度	話し方	学生参加	質問応答	熱意	シラバス	テーマ関心	総合的	学生満足	教員満足
教員	81	3.27	3.57	3.46	3.96	3.74	3.69	3.89	3.34	3.68	4.30	3.73	4.15	3.61	3.54	3.60

	人数	出席率	意欲的	適切評価	目的明確	教科書等	難易度	話し方	学生参加	質問対応	教員熱意	シラバス	テーマ関心	総合的	満足度	興味	推薦
学生	3802	4.48	3.61	3.51	3.75	3.71	3.64	3.63	3.17	3.41	3.87	3.16	3.64	3.32	3.64	3.53	3.48

《 項目別 教員・学生 比較グラフ 》




強くそう思う
そう思う
どちらとも言えない
そう思わない
全くそう思わない
無記入
話し方
学生
26.4%
31.2%
25.4%
11.8%
4.9%
0.4%
教員
19.8%
51.9%
25.9%
2.5%
学生参加
学生
13.1%
23.8%
36.5%
18.8%
7.2%
0.6%
教員
8.6%
38.3%
30.9%
19.8%
1.2%
1.2%
質問応答
学生
14.9%
28.3%
43.0%
9.4%
3.8%
0.6%
教員
11.1%
55.6%
24.7%
7.4%
1.2%
熱意
学生
28.9%
38.4%
24.5%
5.7%
2.0%
0.4%
教員
46.9%
42.0%
6.2%
3.7%
1.2%
シラバス
学生
12.5%
24.9%
36.6%
17.2%
8.3%
0.6%
教員
14.8%
53.1%
23.5%
7.4%
1.2%
テーマ関心
学生
24.6%
33.5%
26.1%
11.3%
4.0%
0.6%
教員
30.9%
58.0%
7.4%
2.5%
1.2%
総合的
学生
13.7%
27.3%
40.4%
12.7%
5.3%
0.7%
教員
12.3%
49.4%
24.7%
11.1%
1.2%
1.2%
学生満足
学生
24.9%
33.4%
26.0%
9.6%
5.2%
0.9%
教員
2.5%
53.1%
40.7%
3.7%
0%
20%
40%
60%
80%
100%

平成17年度 「学生による授業評価」 調査票

この度、本学ではファカルティ・ディベロップメント(FD)活動の一環として、教育の現状を把握し、今後の授業改善などに役立てるために「学生による授業評価」を行うことにしました。この授業評価は、学生の目から見て、現在受講している授業についての意見を尋ねる内容となっています。この授業評価の結果は、個人のプライバシーを守るため統計的に処理するとともに、得られたデータは上記の目的以外には一切使用しません。また、この授業評価が、あなたの成績に影響することは一切ありません。

以下の設問に対してマーク・カードに H か HB の鉛筆でマークして下さい。(回答不要は空欄で、0が必要なら必ず0にマークしてください。)

【授業コード】 (5けた) 1－□ □ □ □ (担当教員による指示に従って授業番号を5桁でマークして下さい。)

【あなた自身のことについて】

性　　別　1. 男　　2. 女

学　　年　1.　1年　　2.　2年　　3.　3年　　4.　4年　　5.　5年　　6.　その他

学系・学部等　1. 人文・社会系　2. 法学系　3. 経営学系　4. 理工学系　5. 都市環境　6. システムデザイン　7. 健康福祉　8. 都立大学　9. その他

首都大学分野・コース　(首都大生のみ:2けた)　01 社会　02 社会人類　03 社会福祉　04 心理　05 教育　06 哲学　07 歴史・考古　08 アジア・日本文化　09 欧米文化　10 表象言語　21 法律　22 政治　26 経営　31 数理　32 物理　33 化学　34 生命　35 電気電子　36 機械　41 都市政策　51 地理環境　52 都市基盤　53 建築都市　54 材料化学　61 ﾋｭｰﾏﾝﾒｶﾄﾛ　62 情報通信　63 航空宇宙　64 経営システム　71 看護　72 理学療法　73 作業療法　74 放射線　81 人文・社会系所属未決定　82 法学系所属未決定　91 大学院生　92 研究生　93 科目等履修生　94 その他

都立大学学部:　1 人文学部　2 法学部　3 経済学部　4 理学部　5 工学部　6 都市研　7大学院生　8 研究生　9 科目等履修生
(都立大学生のみ)

以下の質問について、次の５段階評価に従って最も適切と思われる番号をマークして下さい。

強くそう思う　そう思う　どちらとも言えない　そう思わない　全くそう思わない
5－－－－－－4－－－－－－－3－－－－－－－－－2－－－－－－－－1

【授業に対するあなたの取り組みについて】

問1　この授業への出席率は？　5. 90%以上　4. 70-89%　3. 50-69%　2. 30-49%　1. 0-29%

問2　私は、この授業に意欲的・積極的に取り組んだ。　5----4----3----2----1

問3　私は、この授業を適切に、客観的に評価する自信がある。　5----4----3----2----1

【授業について】

問4　この授業は、目的が明確で、体系的になされていた。　5----4----3----2----1

問5　教科書、レジュメ、黒板、OHP 等の使用が授業の理解に役立った。　5----4----3----2----1

問6　授業全体を通して、授業内容の難易度は適切であった。　5-----4-----3-----2-----1

問7　教員の話し方は聞き取りやすかった。　5-----4-----3-----2-----1

問8　教員は、効果的に学生の授業参加(質問、意見等)を促していた。　5-----4-----3-----2-----1

問9　教員は、学生の質問、意見等に対し、明快に、わかりやすく対応していた。　5-----4-----3-----2-----1

問 10　授業に対する教員の熱意が感じられた。　5----4----3----2----1

問 11　この授業の選択に当たってシラバスが役に立った。　5----4----3----2----1

問 12　この授業のテーマは自分の関心にあっていた。　5----4----3----2----1

問 13　この授業を受講して総合的・学際的なアプローチをするように促された。　5----4----3----2----1

【授業についての満足度】

問 14　私は、この授業を受講して満足した。　5----4----3----2----1

問 15　私は、この授業を受講して、より興味を持ち、深く学びたいと感じた。　5----4----3----2----1

問 16　私は、この授業をほかの学生に薦めたい。　5----4----3----2----1

【自由記述】マーク・カードの裏面に自由に記述して下さい。

①　この授業について改めて欲しい点を、具体的な提案を含めて記述して下さい。

②　この授業で特に良かった点、他の授業でも取り入れて欲しい点などを記述して下さい。

③　その他、授業、カリキュラムなどについて、自由に記述して下さい。(複数科目を受講している場合は、1 回の記述で結構です。)

（ご協力有り難うございました。　首都大学東京 FD 委員会および基礎教育部会）

平成17年度 「教員による授業評価」 調査票

この度、本学ではファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の一環として、教育の現状を把握し、今後の授業改善などに役立てるために「教員による授業評価」を行うことにしました。この授業評価は、先生ご自身が授業をどのように考えているかをお尋ねする内容となっています。この授業評価の結果は、個人のプライバシーを守るため統計的に処理するとともに、得られたデータは上記の目的以外には一切使用しません。また、自由記述欄については、それぞれの質問に対して、先生が普段お考えのことをお書きください。

以下の設問に対してマーク・カードに H か HB の鉛筆でマークして下さい。（回答不要は空欄で、0が必要なら必ず0にマークしてください。）

【授業コード】（5けた）2－□ □ □ □ （封筒に記載してある授業番号を５桁でマークして下さい。）

【教員について】

性　　別　1. 男　　2. 女

職　　名　1．教授　　2．助教授・准教授　　3．講師　　4. 非常勤講師

学系・学部等　1. 人文・社会系　2. 法学系　3. 経営学系　4. 理工学系　5. 都市環境　6. システムデザイン　7. 健康福祉　8．都立大学　9．その他

首都大学分野・コース（2けた）　01 社会　02 社会人類　03 社会福祉　04 心理　05 教育　06 哲学　07 歴史・考古　08 アジア・日本文化　09 欧米文化　10 表象言語　21 法律　22 政治　26 経営　31 数理　32 物理　33 化学　34 生命　35 電気電子　36 機械　41 都市政策　51 地理環境　52 都市基盤　53 建築都市　54 材料化学　61 ﾋｭｰﾏﾝﾒｶﾄﾛ　62 情報通信　63 航空宇宙　64 経営システム　71 看護　72 理学療法　73 作業療法　74 放射線　94 その他

都立大学学部（都立大のみ）：　1. 人文学部　2. 法学部　3. 経済学部　4. 理学部　5. 工学部　6. 都市研究科　7. その他

授業科目　1．都市教養プログラム　2．　3．　4．　5．

受講学生数　1. 30人未満　2. 30－80人未満　3. 80-120人未満　4. 120-200人未満　5. 200人以上

本授業担当教員数　1. 1 人　2. 2 人　3. 3 人　4. 4 人　5. 5 人以上

以下の質問について、次の５段階評価に従って最も適切と思われる番号をマークして下さい。

強くそう思う　そう思う　どちらとも言えない　そう思わない　全くそう思わない

5－－－－－－4－－－－－－3－－－－－－－－－2－－－－－－－－1

【受講学生について】

問1　この授業の受講者人数は適切な規模であった。　5----4----3----2----1

問2　学生は、この授業に意欲的・積極的に取り組んだ。　5----4----3----2----1

問3　学生は、この授業に対し、十分な理解力を持っていた。　5----4----3----2----1

【授業について：共通事項】

問4　この授業については、目的を明確にして、体系的に行うことができた。　5----4----3----2----1

問5　教科書、レジュメ、黒板、OHP 等を適切に使用することができた。　5----4----3----2----1

問6　授業の難易度は、全体的に適切であった。　5----4----3----2----1

問7　学生に聞き取りやすいように話すことができた。　5----4----3----2----1

問8　効果的に学生の授業参加（質問、意見等）を促すことができた。　5----4----3----2----1

問9　学生の質問、意見等に対して、明快に、わかりやすく対応することができた。　5----4----3----2----1

問 10　この授業に対し、熱意を持って取り組んだ。　5----4----3----2----1

問 11　この授業を学生が選択するに当たってシラバスが役に立つように作成した。　5----4----3----2----1

問 12　この授業で学生がテーマに関心を持つように教えた。　5----4----3----2----1

問 13　この授業で学生達が総合的・学際的なアプローチができるように促した。　5----4----3----2----1

【授業についての満足度】

問 14　学生は、この授業を受講して満足したと思う。　5----4----3----2----1

問 15　私は、この授業を教えて満足した。　5----4----3----2----1

【自由記述】マーク・カードの裏面に自由に記述して下さい。

① この授業を行っていく上で、解決すべき課題があれば、具体的にお書きください。

② 教育効果を高めるために、先生が特に行われている方法・工夫がありましたら、具体的にお書き下さい。

③ その他、FD、カリキュラムなどについてご意見がありましたらご自由にお書きください。（**複数の授業を担当されている場合は１回で結構です。**）

（ご協力有り難うございました。　首都大学東京 FD 委員会および基礎教育部会）